

Q6 話し合い活動のポイントは？

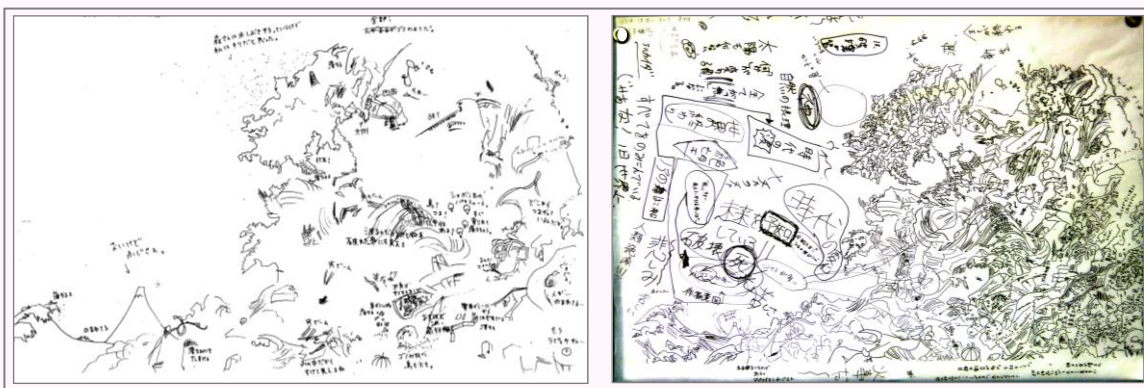
A 話し合い活動では、話し合う必然性、目的の明確化が重要です。個人での活動のあとに、必要に応じてグループや学級全体での話し合い活動を設定しましょう。



ポイント①：話し合う目的を明確にし、生徒と共有しましょう。

何のために、何について話し合うのか、明確にしましょう。例えば、鑑賞における対話的な活動の場面と共同制作における協議の場面とでは、目的が異なります。題材の目標に応じて、必要な場面で効果的に設定しましょう。このほかにも、進行などの役割分担の提示も重要です。

ポイント②：グループでの話し合い活動は、個人での活動を生かした活動になるようにしましょう。



鑑賞の題材で、個人の気づきを基に、グループで意見を共有しながら考えを深めた活動の例
(トレーシングペーパーをワークシートとして活用：左が個人、右がグループ)

個人での活動を生かしたグループ活動を行うためには、話し合う方法を工夫することが大切なのです。この活動では、描かれている対象などを形で描き起こしながら、同時に気付いたことも言葉で表しています。造形的な見方・考え方を働かせることが意識された話し合い活動ですね！



ポイント③：学級全体での話し合い活動では、生徒同士の意見をつなぎ、生徒の考えが深まっていくようにしましょう。

教師

Aグループは、ここに挙げているもの以外にも理由を挙げていましたね。他にどのような意見がありましたか？

生徒

黒板に貼っている理由以外にも、○○○○という意見が多くありました。このデザインが○○○○だと思ったからです。

教師

なるほど！
だから○○○○のように考えたということなんですね。
Cグループは別の視点からの意見でした。どのように考えますか？



東京オリンピック選外エンブレムを再評価する題材における学級全体での話し合い活動の場面